

学校評価特集号

～振り返りを次年度へ～

京都市立岩倉南小学校
校長 石田和三

平素より、本校の教育活動に多大なご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

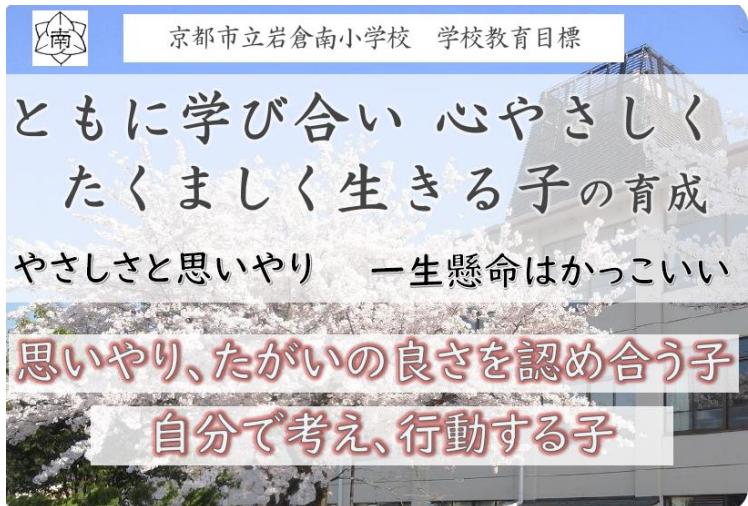
日々の教育活動を進めるに当たっては常に、「『思いやり、たがいの良さを認め合う子』『自分で考え行動する子』の育成」というめざす子ども像に向かっているか、「目標達成に向けた取組の過程はどうだったのか」「次年度に向けて、改善していくところはどういうところか」という振り返りも行っています。振り返りにあたっては、子どもたちの姿や声はもちろん、2学期末に行った「みなみアンケート」の結果も手がかりの一つとしています。

この「学校評価特集号」では、わたしたちの振り返りと「みなみアンケート」の結果を、保護者の皆様にお伝えします。

次年度に向けて、取組にもまだまだ改善の余地があります。よかったですころも課題も含めて、保護者や地域の皆様と共有することで、よりよい学校づくりにつなげていきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

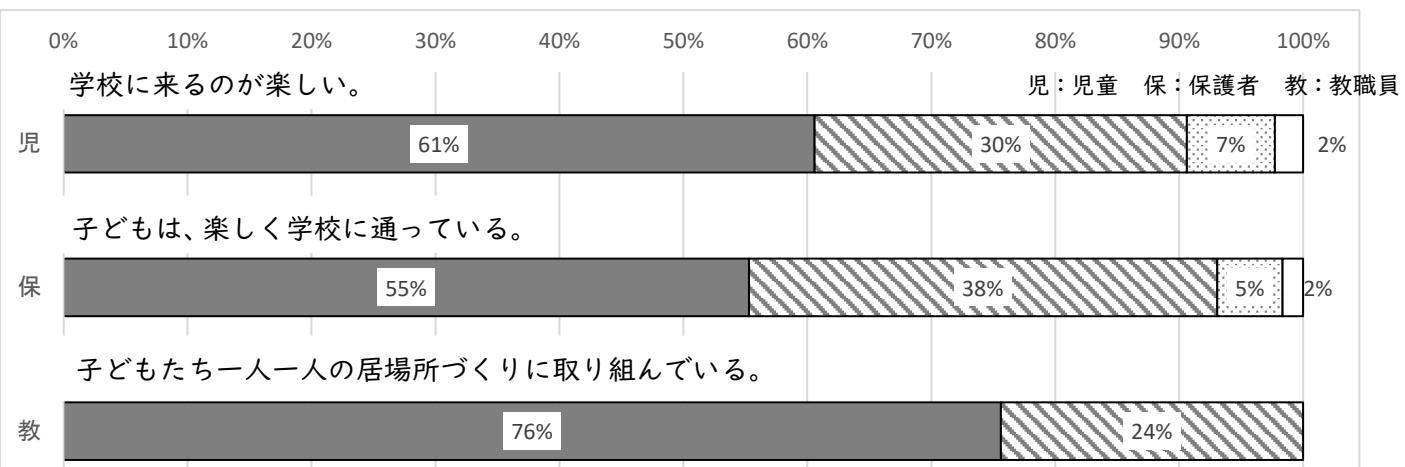
これに先立ち、2/12（水）には、学校運営協議会理事会で、振り返りの内容をお伝えし、理事の皆様からご意見や支援策をいただきました。ご紹介します。

- ◇ 子どもは、失敗する。失敗しないようにどうするのかではなく、失敗したときに何に問題があったのかをしっかりと想え、リカバリーできる力を身に付けさせていきたい。
- ◇ 自分で考えて行動できる子を育てるためには、親として、地域の大人としてどう関わっていけばよいかを考えていきたい。自分で考えて、自分で意思決定できる環境を大人として作っていかなければならない。
- ◇ 自分を自分で認められる子に育ってほしい。自分を認められるようになると、そこから他者を認められるようになる。
- ◇ 子どもたちは交通ルールをしっかりと守っている。立ち当番をしていても信号が点滅したときには、しっかりととまっている。逆に大人の方が、守っていないことが多い。地域に住む大人として子どもに規範となる姿を見せなければならない。
- ◇ 『知・徳・体』の中で『体』が一番大事。体がしっかりとしていないと知識も身につかないし、相手を思いやる心も育たないと思う。しっかりと食べて、寝て、健康な生活を心掛けほしい。

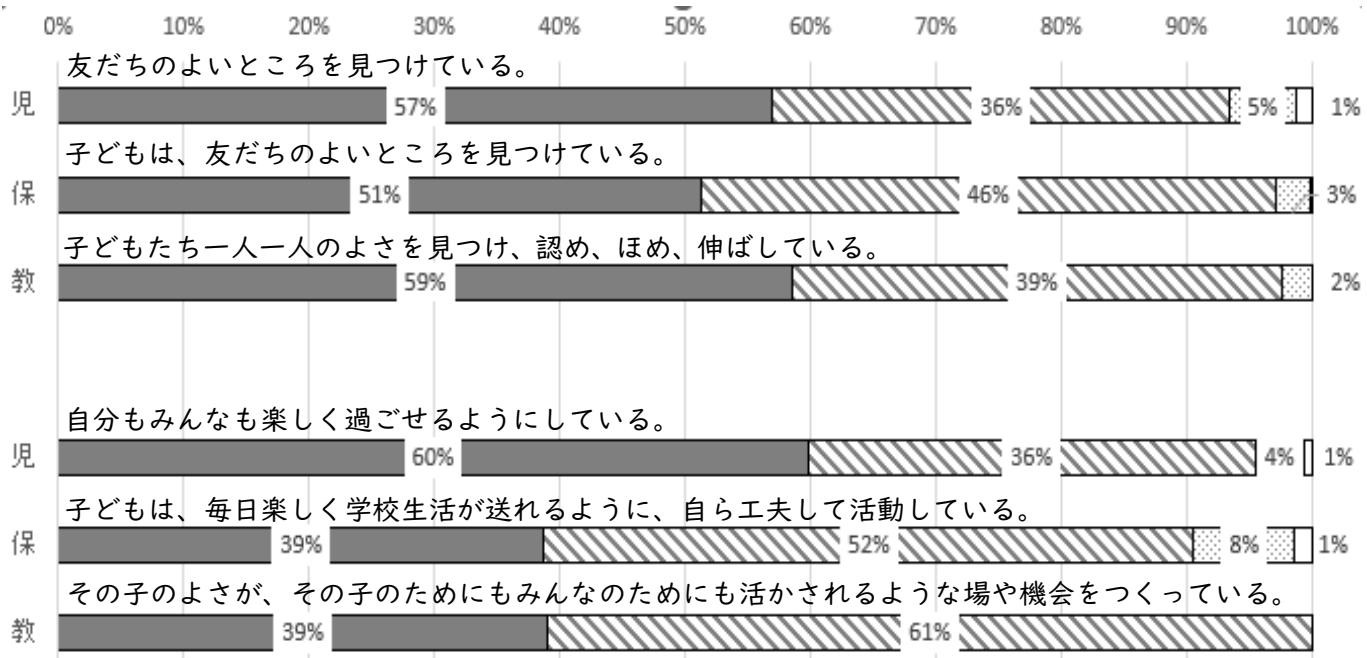


～「思いやりたがいの良さを認め合う子」の育成について～

■そう思う □大体そう思う □あまりそう思わない □そう思わない



前期同様、90%をこえる児童が学校に来るのが楽しいと答えています。全国学力学習状況調査の結果からも、学校に来るのが楽しいという質問と学力には相関関係があるということが示されています。学校に居場所ができ、自信をもって自分を表現できる環境が児童の力を付けて行っているのだと考えます。一方で9%の児童が学校に来るのが楽しくない時があると答えています。私たち教職員は児童が日々少しでも成長できるように声かけをしています。ただその声かけが児童によってはうまく届いていないこともあるかもしれません。このアンケートの他にも「こころほかほかアンケート」等を活用し、児童理解に努めています。「見逃しのない観察」「心の通った支援」を念頭に置き、一人一人の児童と向き合っていきたいと思います。

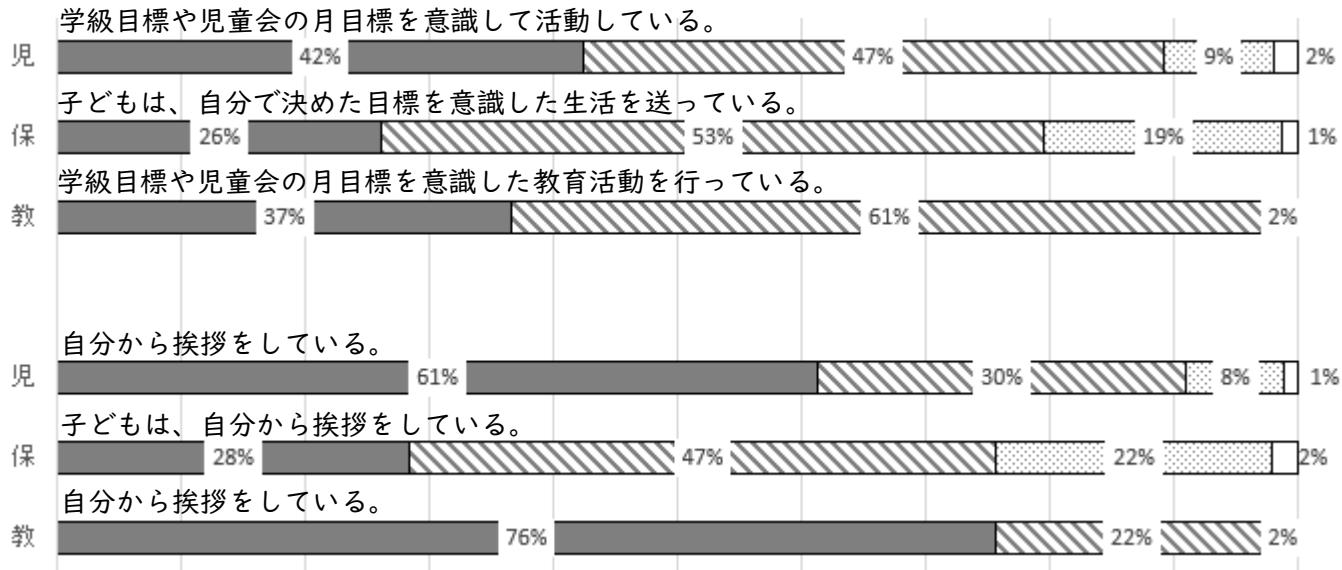


今年度からたてわりグループで、人権学習の一環として「みんなの日」の取組も始めました。学校だよりでも紹介していますが、各学年で学習してきたことを交流した後、みんなで同じ教材に触れ、思ったことや感じたことを話し合っています。高学年の児童が、低学年に児童に寄り添いながら話を聞こうとしている姿もたくさん見られます。いくつか振り返りを紹介します。

「友だちのいいところを小さなところからでもいいので見つけて、ほめたり、困っている人がいたら声をかけて優しくしたりして、みんなが安心できる教室をみんなで協力して作っていきたいです。」（6年生）

「みんなが楽しそうにしていて私たちが役に立ったと思います。2年生は特に楽しそうにしてくれました。たてわり活動を通して1年生2年生とも仲良くなれました。」（3年生）

こういった様々な活動がやさしさと思いやりに繋がっているのだと思います。



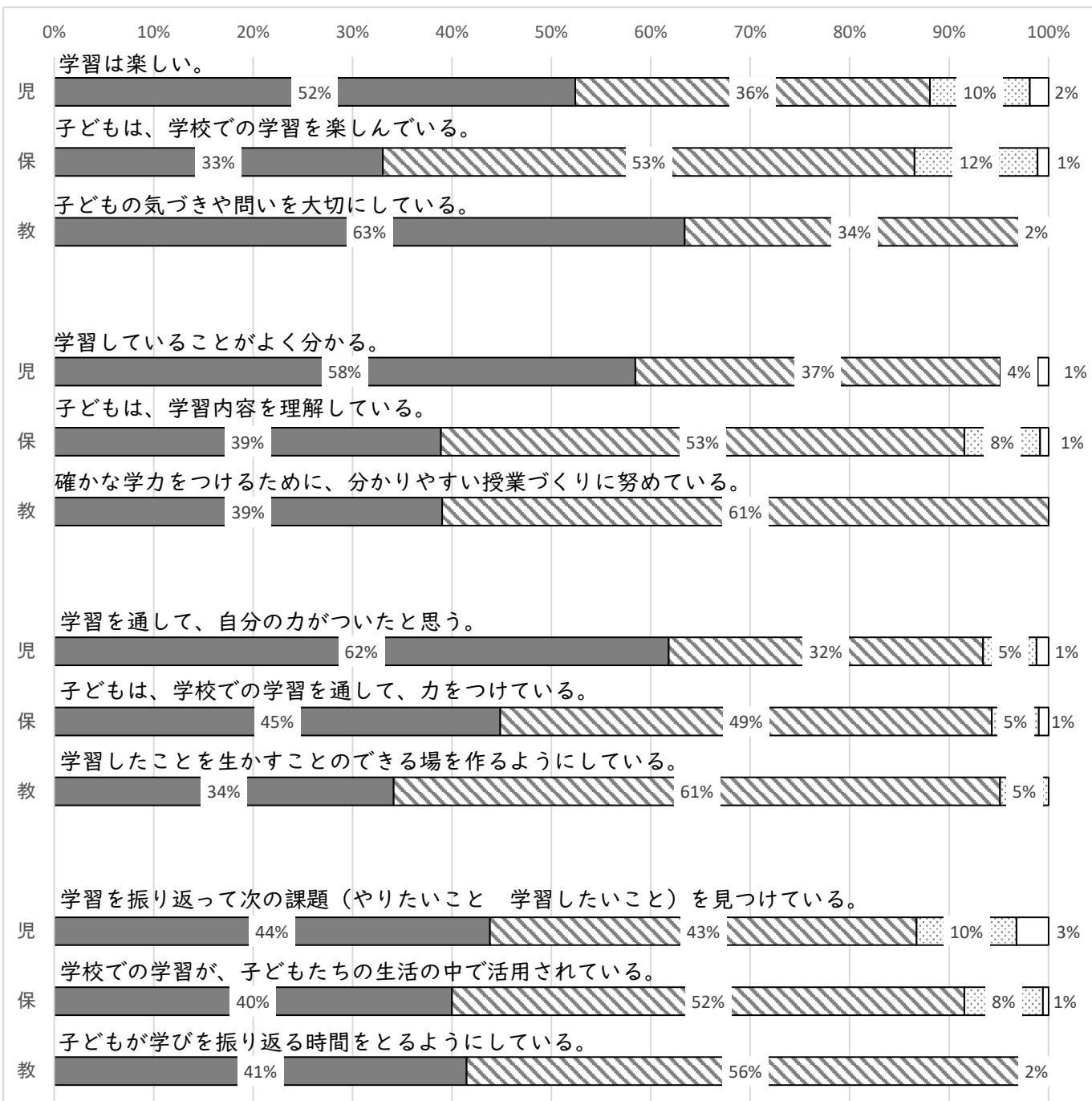
学校には様々な週間があります。給食週間、手洗い週間、あいさつ週間など、各委員会の児童が、全校児童にとって学校が過ごしやすくなるような取組を考え、各クラスに伝えています。クラスの中でも、チェックシートを記入したり、目標を考えたりして具体的な活動にしています。児童アンケート結果を見ると、89%の児童が目標を意識した活動を送ることができていると答えています。目標をただの言葉で終わらすのではなく、学校生活の中で意識しようとしている姿が表れているのではないかでしょうか。

ただ、保護者の方の結果を見てみると、20%の児童が自分で決めた目標を意識できていないと回答しています。定められた目標に向かって、努力することはできる一方、児童が自分で課題を見つけ目標を設定するというところには課題があるのかもしれません。自分で考え、行動する子を育していくためにも、学習以外の時間にも自分で課題について考える時間を大切にしていきたいと思います。

挨拶については、児童と保護者の結果がもっともわかる項目です。「よくできる」の回答だけを見ると、30%をこえる開きが見られます。児童は自分から挨拶をしているつもりでも、大人から見るとそうではないと感じる場面が多々あるのかもしれません。せせられてするものから、自然とできるものにしていくにはどうすればよいか考えていかなければいけないと感じます。また、大きな声を出して挨拶をするだけでなく、顔を見合させてにこっとする、会釈するなどその場に応じた方法についても折に触れ、話していきたいと思います。

～「自分で考え行動する子」の育成について～

■ そう思う ▨ 大体そう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない

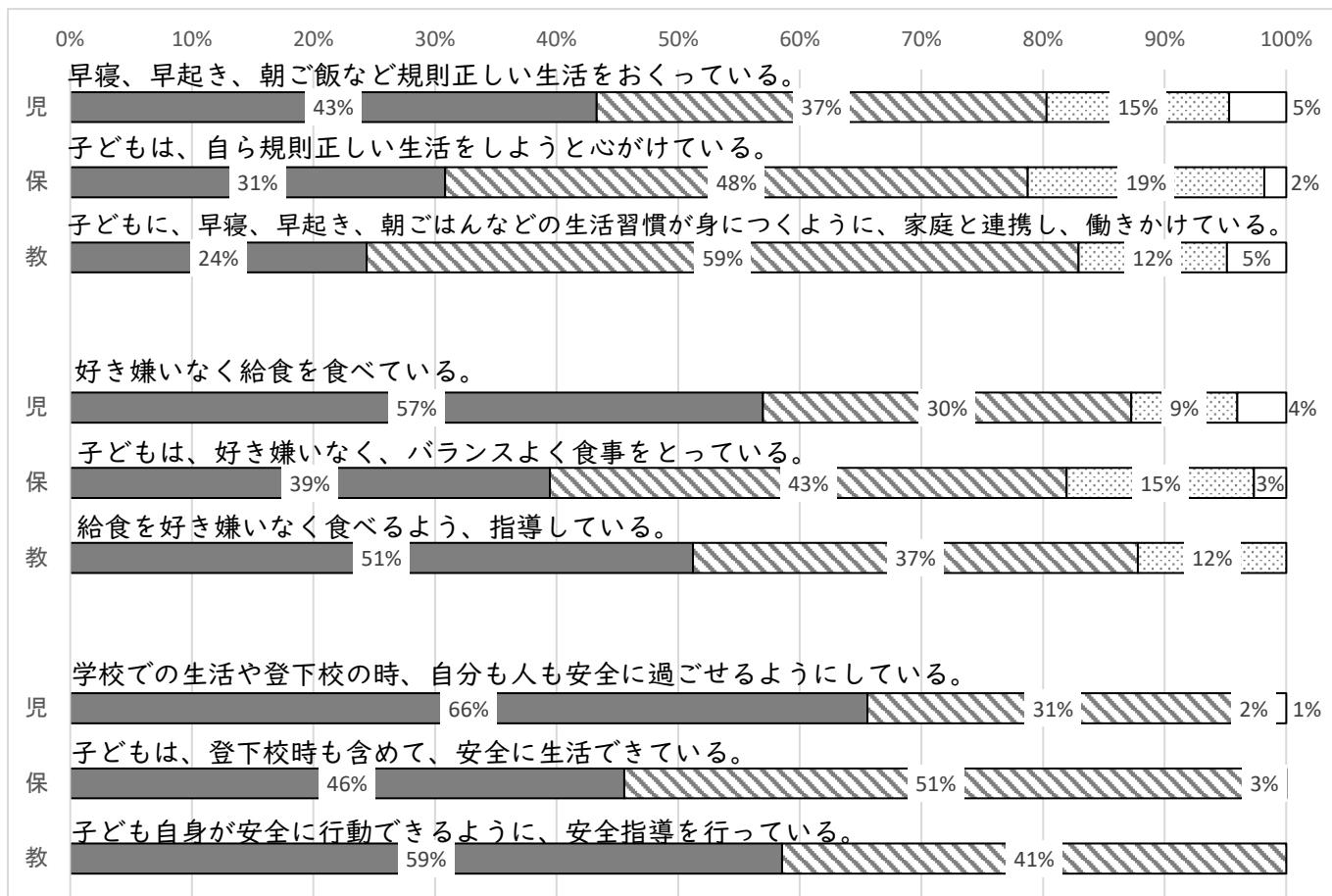


学習を楽しいと感じている児童は、「分かる」「力がついたと思う」という項目に対しても肯定的な回答が多い傾向が見られました。児童にとっては、分かった、できたようになったという感覚が、学びを楽しいと感じる大きな理由になっているのだと思います。授業の中では、児童のなぜだろう、どうしてだろうという疑問や問い合わせから学習が展開していくように各教科の導入を工夫したり、自分の学習の進度や調べたいことに合わせて学習を選択できるような場を工夫したりしています。今回の結果を見てみると、分かった、力がついたという項目は、どちらも95%近くの児童が肯定的な回答をしています。今年度の取組に対して一定の効果が表れているのではないかと思います。ただ一方で、楽しくない、分からぬ、力もついていないと感じている児童もいます。本来学びは楽しいものであるはずです。難しいかもしれません、すべての児童にとって学習が楽しいものになるように、工夫を重ねていきたいと思います。

振り返りに関しては、ただ授業の感想や気づきを述べるだけでなく、児童自身が振り返りから次へのめあてをもてるような学習の流れができるようにこれからも試行錯誤していきたいと思います。

～「自分で考え、行動する子」（体を大切にする子）の育成に関して～

■ そう思う □ 大体そう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない



1つ目は、規則正しい生活ができているかどうかの項目です。学校では、身体計測やそれぞれの検診の際に、養護教諭が健康についての指導をしています。今回のアンケート結果を見ると、前期同様、児童の「よくできる」と保護者の「よくできる」の回答に開きが見られました。保護者アンケートの自らというところがポイントなのかもしれません。難しいかもしれません、誰かに言われてするのではなく、自分から行動できる児童を育てられるように、これまで同様、様々な機会において健康についての話をていきたいと思います。

2つ目は、食に関する項目です。好き嫌いなく何でも食べられることが一番ですが、「苦手なものがあっても一口は食べてみよう。」「周りの友だちと一緒になら食べられた。」と食に対して少しでも前向きな気持ちをもつことができるよう話をしています。コロナ禍も明け、仲のよい友だちと話しながら食べたり、クラスによっては食べる座席の配置を工夫したりと楽しい給食の時間が戻ってきました。食に対して前向きな気持ちをもつができるよう、声かけや環境を工夫していきたいと思います。また、ご家庭での協力も不可欠だと思いますので、毎日の子どもとの会話の中に、給食のことも話題にしていただければと思います。

3つ目は、安全についてです。アンケート結果を見ると、97%の児童が安全に過ごすことができていると答えています。しかし、上下校や学校の廊下での様子を見ていても、危ないと思うことは多々あります。自分は安全だと思っていても、周りの人にとってはそうではないこともあるかもしれません。児童自身が、安全についてしっかりとと考え、守らなければいけないルールには、きちんと意味があることも理解した上で守れるようになるようにしていかなければならぬと思います。

また、上下校時は、PTAの立ち当番ボランティアの方々、岩倉南子ども見守り隊の方々に見守っていただいている。自分たちのためにしていただいている活動に対して「おはようございます」「行ってきます」「いつもありがとうございます」など感謝の気持ちを伝えられる子どもになっていってほしいと思います。